



Development and validation of the optimal circumferential resection margin in pathological T3 esophageal cancer: a multicenter retrospective study

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 浜松医科大学 公開日: 2023-04-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 羽田, 綾馬 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00004361

論文審査の結果の要旨

食道癌の外膜への浸潤の評価について、本邦の報告は少なく、予後への意義や術後治療の修飾の可能性などについての議論も十分ではない。本研究は直腸癌などでも研究が始まっている circumferential resection margin (CRM) について、自施設(73 例)および他施設(99 例)の病理残余検体を後方視的に評価した。なお、本研究は本学生命科学・医学系研究倫理委員会の承認 (No.21-062)ならびに静岡県立静岡がんセンター臨床研究倫理委員会の承認 (No.2965)を得て行った。

評価の結果、CRM が 600 μm という再発リスクなどの予測の際のカットオフ値を見出した。これは英米で推奨されているものよりやや小さい値であるが、本邦 2 施設にあてはめると両者よりも優れた予測指標であった。外科的に preparation したものを貼り付けた、日常的病理診断で行われている過程で作成された検体を用いている。そのため、欧米の直腸で解析しているような輪切り標本を用いた評価にくらべて人為的な影響が入りうる点、腫瘍自体の分子病理学的性格や体積といった種々の交絡因子が存在する点についても申請者は十分に理解していた。さらに、これらの外膜への浸潤が実際に再発（リンパ節）を起こす起点となると想像されている筋層から外膜にかけてのリンパ管浸潤についての考察や展望を解説した。審査委員会では、これらの諸知見はいずれも医学的、また実用的価値が高く、さらに発展的展開も期待できると高く評価した。

以上により、本論文は博士（医学）の学位の授与にふさわしいと審査員全員一致で評価した。

論文審査担当者

主査 梶村 春彦

副査 杉本 健

副査 三澤 清